

# 国語 試験問題

二月一日実施

## 注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、問題は余白をふくめ、十八ページにわたっています。
- 三、試験時間は五十分間です。
- 四、答えはすべて解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

京華中学校

受験番号
氏名

余白

問題は次のページから始まります。

余白

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東浜中学校に通う中学二年生の豪太郎は、家庭の事情で不登校気味な篠田から預かってきたモデルロケットを展示したが、他の生徒たちは普段見かけない篠田の作品を見て、口々にあらぬうわさを話していた。

うわさを聞いて会議室に押しかけてきた生徒たちが、無責任なことをしゃべっている。そんなやつらにはひとこといってやりたくなるが、豪太郎はぐっとこらえた。

「豪太郎くんのお手柄ね。篠田くんの作品を展示できるなんて、信じられないわ」

倉橋先生が、一眼レフのカメラのシャッター音をカシヤカシヤ響かせながら、篠田の作品を何枚も撮影している。家庭訪問のときに、篠田にあげるのだという。

「おれの手柄なんかじゃありません。篠田は、職場体験にだけ参加するのはいいとこどりだからって、自分の意思で決めたんです。発表会に参加することで、東浜中学生としての責任を果たしたいっていつていました」

倉橋先生にほめられて、内心かなり気をよくしながらも、豪太郎はちよつと謙けんしてみました。  
すると倉橋先生は、肩かたまで伸びたやわらかそうな髪かみに触ふれながら、ぼつりといった。

「篠田くん、自分が作ったロケットを、みんなに見てもらいたかったんじゃないかしら」

「えっ、みんなに？」

豪太郎は、ロケットを差し出したときの篠田の顔を思い返してみた。

篠田は少し恥はずかしそうな、それでいてどこか得意げな表情をしていた。

「承認欲求しやうにんって、聞いたことあるかしら。他者から認められたいって願望よ。篠田くんも、自分が一生懸命いっしょうけんめい作ったロケットを、東浜中のみんなに認めてもらいたかったんだと思うの。その気持ちをかなえるお手伝いをしてくれたのが、豪太郎くんよ」

承認欲求、という言葉が、豪太郎の耳の奥おくでいつまでも響いていた。

創作活動は、一途に作品と向きあうひとときだ。思いのこもった、よりよい作品に仕上げのために試行錯誤を繰り返すのは、ある意味孤独な作業だろう。が、ひとたび作品が完成すると、まして、それが満足のいく出来であればあるほど、だれかに見てもらいたいという気持ちがいってくる。それは、篠田だけではなくだれにでもある自然な感情だと、豪太郎は思う。

豪太郎は、篠田自身のように、むだなものをすべてそぎ落としたロケットをながめた。

家の中だけでひっそり過ごしていれば、さっきのように心ない中傷を浴びせられることもない。だが篠田は、あえて自分の作品をこの場にさらした。篠田はこのロケットに、強い思い入れがあるのではないだろうか。

「篠田くんってあんなに無愛想なのに、なんだか不思議な魅力があるのよね」

目の前に、倉橋先生の笑顔があった。

先生は、いつだって顔全体で笑う。見ているほうも思わずほほえまずにはいられない、大きな笑顔だ。

「ほんと、不思議なやつです。おれも、いつも気づくと篠田のペースにはまっています」

そのとき豪太郎の心の中には、あるひとつの考えが、入道雲のようにもくもくわきあがっていた。

(中略)

文化部発表会、二日目。

去年は見学の生徒もまばらだったが、今年は篠田のモデルロケットが話題を集めて、会議室はまずまずのにぎわいだ。豪太郎はすでにきのう見た、美術部の油絵や郷土研究部のジオラマをざっと見ながら、会議室内をぶらぶら歩いた。だが、モデルロケットが展示された長机が近づくにつれて、ひざのあたりがこわばってきた。

ようやくモデルロケットの前までたどり着いて、豪太郎が手をうしろに組みながら、周囲を歩きつ戻りつしていると、「へえーっ。これ、かわいい！」

というかん高い声が、背中から聞こえた。

豪太郎の肩が、びくつと跳ね上がる。

乱れた呼吸を整えて、豪太郎がなにくわぬ顔で振り向くと、同じクラスの女子が、ぶたの編みぐるみを手を取ってにこにこしている。

「ねえ、勝手に触っちゃだめだよ。……だけど、ほんとにかわいいねえ。寝ぼけたような表情がなんともいえないよ。オカピもシーサーも、すごくいいじゃん」

「だよー。あたしこのぶた、ほしくなっちゃった。でも、なんでロケットの隣に置いてあるんだろうね。小坂郁美って

書いてあるけど、家庭部の子じゃないのかな」

「学年もクラスも書いてないね。もしかしたら、篠田くんみたいに、不登校の生徒なのかも。小坂郁美って二年生にはいないから、一年生か三年生じゃないのかなあ」

4 そんなことを話しながら、ふたりは会議室を出ていった。

がちがちに緊張きんちやうしていた豪太郎のからだから、ゆるゆると力が抜けていく。豪太郎はカニのように横歩きしながら、小坂郁美の作品の脇わきに立った。

ぶたとオカピと一対いったいのシーサー。豪太郎の自信作だ。

篠田の出品に勇気をもらって、豪太郎も自分の作品を展示することを決意した。今日の朝練前、人気のない会議室しに忍びこんで、「小坂郁美」の名札とともに、四体の編みぐるみをつっそりここに置いたのだ。

「ほら、先生。あんな人形、きのうまでなかったはずです！」

突然とつぜん、会議室の入り口で金切り声が響いた。

豪太郎が振り返ると、家庭部の二年生が編みぐるみをにらみつけるようにしながら、倉橋先生の腕うでを **A** 引っ張っている。倉橋先生は、

「あら、ほんとうだわ」

と首を傾かたげて、編みぐるみのほうに近づいてきた。

「家庭部に小坂郁美って子いるのかって、みんなに聞かれるんです。だけどそんな子いないし、なんだか気持ち悪くて」  
家庭部の女子がそういって、胸の前で両腕りょううでを抱かかえこむようにした。

「小坂郁美って、東浜中にはいないと思うわ。いったいだれが置いたのかしら」

「えーっ、この学校にいないんですか。いやだあ、マジで怖い。先生、こんな人形、早く職員室に持ってってください！」  
顔を引きつらせて叫さけんでいる女子をなだめながら、倉橋先生は豪太郎が作った編みぐるみを見つめている。

5 豪太郎の心臓の鼓動こどうが、にわかには激しくなる。会議室にいたほかの生徒たちも、なにごとかと **B** 集まってきた。

ようやく女子の興奮が収まってきたころ、倉橋先生がハスキーな声でぼつりとつぶやいた。

「人形には、魂たましいが宿よるんですって」

女子がまばたきしながら、倉橋先生を見る。

「思いをこめて一生懸命作ったのよ。この編みぐるみを見ると、やさしい気持ちになれるわ。この子たち、いつもそばに

置いておきたくならない？」

倉橋先生の言葉に、女子があらためてオカピの編みぐるみに目を向けた。

垂れ気味の耳をした、内気そうなオカピだ。ちよつとアンバランスな、黒くて大きな鼻が愛らしい。頬のあたりに編みこんだピンクの毛糸が、あどけない雰囲気を漂わせている。

「この編みぐるみを、東浜中の生徒に見せたかったのよ。だけど、なにか事情があつて、名前は明かせなかつたんじゃないかしら。もちろん、あなたが気持ち悪いっていうのも当然よ。だから先生が責任をもつて監視するわ。休み時間と放課後は、先生がここに居るから」

倉橋先生の言葉に、女子は C という感じでうなずいた。それから先生は、かたわらでなりゆきを見守っていた豪太郎に、ゆつくりと視線を移した。

豪太郎の心の奥まで届く、まっすぐなまなざしだ。豪太郎は、思わず目をそらしてしまう。

すると倉橋先生は、いつものやわらかな笑顔を見せて、

「篠田くんのロケットも心配よね。いたずらでもされたら、頼まれた豪太郎くんだって困るでしょ。先生がしっかり見張つてるから、安心してね」

と、右腕で力こぶを作るようなしぐさを見せた。

倉橋先生の桜色のブラウスが、生徒たちの輪の中に紛れていく。身長百五十四センチだという小柄な倉橋先生だけれど、どこにいても先生の姿は、豪太郎にはふんわり浮かびあがつて見えた。

文化部発表会が終わった。

展示されていた作品はすべて片づけられ、会議室にはまたもとのように机と椅子が並べられた。小坂郁美の正体を明かす度胸のない豪太郎は、三日目の朝練前にこそそこそそ会議室に入つて、早々と編みぐるみを引き上げてしまった。だから豪太郎の編みぐるみは、一日限りの展示だった。それでも豪太郎のからだは、いまでも微熱が続いているように、ぼうつと火照っている。

発表会の二日目、豪太郎は何度も会議室へ足を運んだ。

そして、いかにもモデルロケットが気になるようなそぶりを見せながら、編みぐるみのそばに張りついていた。小坂郁美の作品を目にした生徒たちが、「かわいいね」とか「じょうずだね」などといいながら、豪太郎の横をすり抜けていく。そのたびに豪太郎の心は、春を待つつぼみのようにふくらんでいった。

これまで、ばあちゃんにしか見せたことがない編みぐるみだ。

「この編みぐるみ、生きてるみたいだね」

という声を聞いたときには、豪太郎の心の中のつぼみが一気に満開になった。

(海緒裕『ぶたのしっぽ』による)

1. A C にあてはまる言葉として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア しぶしぶ    イ おずおず    ウ ぐいぐい    エ ぱらぱら

2. ———線部1に「豪太郎はちよつと謙そんしてみせた」とありますが、このときの豪太郎の様子としてあてはまらないものを一つ選び、符号で答えなさい。

ア 自分の気持ちを抑えて倉橋先生に対して平静を装っている。

イ 自分だけがほめられたことに対して優越感を覚えている。

ウ 自分の行動が倉橋先生に評価されて誇らしく思っている。

エ 篠田の考え方や実行力を友人として尊重している。

3. ———線部2に「豪太郎は……ながめた」とありますが、このときの豪太郎を説明した次の文の I III にあてはまる言葉を、指定字数でそれぞれ抜き出しなさい。

豪太郎は、篠田が発表会への出品を決めた理由を生徒としての I (八字) という気持ちだけと考えていたが、倉橋先生の言葉によって、 II (九字) 作品を III (十一字) という気持ちもあるのではないかと考えている。

4. ———線部3「あるひとつの考え」が簡潔に表現された部分を十二字で抜き出しなさい。

5. ——— 線部4に「がちがちに……抜けていく」とありますが、その理由として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 編みぐるみをクラスの女子たちに勝手に触られたので、壊こわされてしまったらどうしようかと焦あせっていたが、編みぐるみを丁寧ていねいに扱あつかってもらい安心したから。

イ 自分の作品の評価が気になって仕方がなかったが、作品に込こめた思いに強く共感されたことに加えて、小坂郁美の正体を詮索せんさくされずに済んで安心したから。

ウ 正体を隠かくして出品したために、否定的な評価を受けるのではと恐おそれていたが、家庭部の作品と勘違かんちがいされたことで作品を受け入れてもらえて安心したから。

エ 自分の作品を見た同級生がどのように反応するか気がかりだったが、作品を受け入れられたことに加えて、出品者の正体を探さぐられずに済んで安心したから。

6. ——— 線部5に「豪太郎の心臓の鼓動が、にわかには激しくなる」とありますが、このときの豪太郎の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 自作の編みぐるみを偽名ごめいを使って出品したが、家庭部の女子に気味悪がられてしまい、作品を出品したことを後悔こうかいしている。

イ 編みぐるみをこっそり出品したものの、家庭部の女子が制作者について騒さわぎ始めたことで、作品が撤去てつぎよされてしまうのではないかと心配している。

ウ 自信作の編みぐるみを目立たないように出品したが、倉橋先生が制作者について追及ついきゆうしたせいで、騒さわぎが大きくなるのではないかと恐れている。

エ なにくわぬ顔で作品の脇に立っていたものの、正体を隠して出品したことで誤解を招いてしまい、これ以上は真相を隠せないと焦あせっている。

7. ———線部6に「豪太郎は、思わず目をそらしてしまふ」とありますが、その理由として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 密かに編みぐるみを出品したことを倉橋先生に見透かされたような気がして、戸惑ったから。

イ 偽名を使って出品したことを倉橋先生に責められているように感じて、罪悪感を覚えたから。

ウ 勝手に編みぐるみを出品したせいで倉橋先生からの評価が下がってしまい、後悔したから。

エ 偽名を使って出品したことを察した倉橋先生に気を遣ってもらい、きまづくなったから。

8. ———線部7に「豪太郎の心の中のつぼみが一気に満開になった」とありますが、どういうことですか。「承認欲求」という言葉を使って七十字以内で書きなさい。

9. 本文の表現の特徴として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 編みぐるみの特徴が豪太郎自身と重ねて描かれることで、豪太郎の性格を読者が読み取りやすくなっている。

イ 会話を中心に物語が展開することで、豪太郎の揺れ動く心情を読者が読み取りやすくなっている。

ウ 比喩表現が用いられることで、豪太郎の思いや心情の移り変わりを読者が読み取りやすくなっている。

エ 複数の登場人物に視点があたること、豪太郎の状況を読者が客観的に読み取りやすくなっている。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の①④は内容のまとめりに独自に付した段落番号である。

① 人とのやりとりを躊躇<sup>ちゆうちゆう</sup>してしまいう子に対して、「うちの子は恥ずかしがりやだから」という昔からの決まり文句があります。

たしかに、人との関わりが苦手なことは事実としてあることでしょう。A、それを理由に他者との接触<sup>せつしよく</sup>を親がさまたげるようなことがあれば、それは子どもの成長を放棄<sup>ほうき</sup>しているのと同じです。

② 中・高生世代であれば、自分から率先<sup>そつせん</sup>してあいさつをするのに恥ずかしさを感じることもあると思います。胸の内では相手の存在を気にしながらも、思わず素通り<sup>すどおり</sup>をしてしまうこともあるかもしれません。友達の手前、余計に行動しづらいこともありますよね。

でも、まだ見ぬ一人ひとりが自分の将来に関わっているかもしれないかと思うと、人と関わらないことは損失にも思えてくるはずです。上手にあいさつができる子は、チャンスをつかめる子でもあることを忘れてはいけません。

小さな子どもには「あいさつ」を「成長へのきっかけ」という観点から教えるべきです。人と関わるのが、かけがえのない出来事にも感じられてくるのではないのでしょうか。

あいさつの価値の大きさは、大人であっても変わりません。たった一回の「こんにちは」で生まれた接点<sup>せつてん</sup>が新しい仕事につながったり、運命を左右する出会いであったりすることもあります。場合によっては、人生をもにする伴侶<sup>はんりよ</sup>を見つめるきっかけにもなるはずです。

B、「こんにちは」というあいさつの価値は、その人自身<sup>そのひとみづかみ</sup>がつくるとも言えるのです。

1 出会いという観点から見ると、あいさつにはまだ可能性<sup>1</sup>があります。

世間は狭<sup>せま</sup>いとよく言われますが、すべての人や物とのつながりは、平均で六人の人を介<sup>か</sup>してなされるという説があります。「六次の隔<sup>へだ</sup>たり (Six Degrees of Separation)」と呼ばれるものです。皆さんの中にも聞いたことがある方がいるかもしれません。

今は身近に感じられなくても、出会いたい人は案外近くにいるということになります。SNSが発達した昨今では、平均

六人より少ない人数でも出会えることが指摘ししてきされているようです。

信頼しんちいする友人を通じて、誰だれかを紹介しょうかいしてもらおうような経験がある人もいるでしょう。たった一人との出会いが、次の出会いにつながっている。新たな交流によって、自分の人生が大きく好転していくことが事実としてあります。

仮に「あいさつ」をきっかけに人生が変わった経験をした大人がいれば、その人にとっての「あいさつ」は「運命を変えるかけがえのないもの」となります。決して、ただの儀礼ぎれいてき的なやりとりとは考えないはずですよ。

**③** 本章の冒頭ぼうとうで「あいさつ不要論」の例を紹介しました。あいさつを「話わしたくもない人に向けた形ばかりの苦痛なもの」と考えている人とは、まったく違う捉えとらえになるかと思えます。同じことばであっても、学んできた背景によって、見える景色は異なります。

価値観は人それぞれです。どちらがいいという判断を簡単に下すことはできません。ただ一つ言えるのは、ことばの意味や価値を増やしていくことは、ことばを通して物事を多面的に見ることにつながると思います。こうした見方ができる人のことを「大人」と呼ぶのだと考えています。

あいさつをする習慣が築かれている子は、相手意識が育まれている子ともいえます。相手意識は第2章で確認かくにんした「聞くこと」の土台でもありましたね。人とつながって世界を広げたいという想おもいは、声や表情などの仕草にはつきりと表れます。あなたにとってあいさつが印象に残る子がいたとしたら、その子はもう自分の力で未来を切り拓ひらいている証しょうこ拠こです。

進んで頭を下げたり、声をかけたりするのは、人への関心がなければむずかしいこともあります。だからこそ、人と通じ合うことに喜びを感じた経験があるかどうかは、子どもの成長に大切だといえるでしょう。

反対に、あいさつの習慣がない子は、相手意識が希薄きはくな場合が多いものです。相手がどう感じるかを考えるよりも、自己中心的に物事をとらえることを優先してしまえます。こうした子は、ことばを上手に使うことにも慣れていません。だから当然、ことばづかいにも課題が見られます。

「やばい」、「きもい」、「うざい」、「えぐい」、「だるい」——どんな会話であっても、たいいていこれらのことばで済ませしてしまうことが日常の習慣になっている子もいます。中・高生であれば一度は使ったことがあるでしょうか。もはや違和感わかんなく使っていることもあるかもしれません。

一方で、子どもの成長という側面から考えたときに、乱暴なことばづかいはマイナスに働きます。**C**、「品がない」、「イメージが悪い」といった印象の問題もあるかもしれません。しかし、他者からの心証しんじょうがよくないということ以外に、

別の懸念事項が生じてきます。

それは「友人関係」の問題です。人と人との関係は、ことばの意味と価値を同質のものとして扱う者同士の方がうまくいくものです。先ほど例に挙げた「あいさつは話したくもない人に向けた形ばかりの苦痛なもの」という価値観であれば、これに共感できる者同士の方がコミュニケーションを形成しやすいでしょう。土台となるものごとの見方や考え方が合うのですから。だから、ことばづかいが汚い人との時間が長くなれば、思考や行動パターンも自然と似てきます。

仏教の教えの中に「悪友を避けて善友を求めよ」というものがあります。新しい間柄になれば、人は必ず影響を受けます。だから、付き合う人を考えなさいということですね。逆も然りで、自分自身が人に与えている影響も当然あります。あなたに近寄ってくる人は、あなたのことばづかいやふるまいを見ながら判断をしていることになりました。

ことばづかいは人間関係づくりに大きく関係をしていくことがわかるかと思えます。つまり、ことばを発することは「自分のことばづかいを好ましいと感じる人との接点をつくること」を意味しているのです。

**4** ことばづかいの問題は、それだけにとどまりません。話すことばに意識が及ばなくなると、ことばを発するときの思考プロセスにも問題が生じます。

本来、コミュニケーションは、ことばのつかい方に細かい配慮が求められます。同じ内容のやりとりであっても、異なるAさんとBさんとは発することばは、一律にはならないはずで、それは性格や人柄の違いかもしれないですし、体調や精神状況の差かもしれません。絶対調の人と落ち込んでいる人、社交的な人と内気な人とは、かけることばも内容も変わりますよね。相手の様子と場の雰囲気を感じとりながら、適切に使うべきことばを吟味することでしょう。

相手の立場や身分、置かれた状況をふまえるというのは、「よりふさわしいことば」を自分なりに判断して使うということです。その場に依じて「今の状況は、このことばを使うべき」、「この人だったら、こう言おう」と常に考えながら話すこととなります。第1章の「ごめんなさい」を使う感覚にも通じることです。

人とのやりとりでは、頭の中でことばを選ぶ瞬間が必ずあるものです。その選択肢の幅は、語彙力の問題だけではなく、適切に状況を読みとる力にも左右されます。

質のよいコミュニケーションは、繊細なことば選びとセットなのです。

ことばを使うときに一切の状況をふまえないのは、残念ながら「何も考えていない」ということになります。

「やばい」ということばは便利なものです。肯定的な意味でも、否定的な意味でも使うことができるからです。しかし、あらゆる場面で使うことができるということは、結局は状況を考えずに使ってしまうがちです。つまり、話し手が思考す

る場面が少ないのです。これが一律にことばを使うことの弊害です。

子どものことばづかいを正す意図は「コミュニケーションを通じて思考する場面を増やす」という点にもあります。人とやりとりをするたびに、場にふさわしいことばを選んでいる子とそうでない子。両者の間には、「考える」という経験の積み方に、はっきりとした差が生まれるのです。

(岸圭介『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』による)

1. 

A
---

C
---

 にあてはまる言葉として適当なものを選び、それぞれ符号で答えなさい。

ア さて    イ つまり    ウ しかし    エ もちろん

2. ———線部1「あいさつにはまだ可能性がありますが」とはどのようなことですか。最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア 「あいさつ」は、人と人との関係性を親密にしてかけがえのない友人関係を深めることに加えて、あいさつを交わすことで周囲との関係をより安定したものにするということ。

イ 「あいさつ」は、初対面の人との緊張を和らげて心を開ききっかけになることに加えて、あいさつによって印象を良くすることでその後の人脈づくりを円滑にするということ。

ウ 「あいさつ」は、人生を変えるきっかけにもなりうる人との接点を生み出すことに加えて、あいさつによって生まれた出会いを介して新たなよい人脈に繋がるということ。

エ 「あいさつ」は、新たな出会いや思いがけない交流を持つきっかけになることに加えて、あいさつを交わすなかで周囲の人の考えに触れて自分の価値観を広げられるということ。

3. ——— 線部2 「まったく違う捉え」について説明した次の文の I Ⅳ にあてはまる言葉を、指定字数でそれぞれ抜き出しなさい。

「あいさつ」を不要であると考えている人は、あいさつを I (八字) と考えるため、Ⅱ (五字) が低く、物事を Ⅲ (五字) に捉えがちな一方で、「あいさつ」を必要であると考えている人は、あいさつを I と考えないため、自然と Ⅱ が育まれていき、物事を Ⅳ (八字) ができる。

4. ——— 線部3に「それだけにとどまりません」とありますが、「それ」とはどのようなことですか。「コミュニティ」という言葉を使って「乱暴なことばづかいは」という問題」の解答欄に合うように六十五字以内で書きなさい。

5. ——— 線部4 「繊細なことば選び」とはどういうことですか。本文中から三十七字で探し、初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

6. ① ④ 段落の関係の説明として最も適当なものを選び、符号で答えなさい。

ア ① 段落で一般的な事実を紹介し、② 段落でその事実を肯定しつつ具体例を交えて補強している。

イ ② 段落で問題提起をし、③ 段落でその答えについて具体例を交えながらくわしく説明している。

ウ ②・③ 段落で筆者の経験を中心に話題を展開し、④ 段落でその考えの根拠となる事柄を説明している。

エ ③ 段落で具体例を交えながら筆者の考えを述べ、④ 段落で全体にかかわる結論を述べている。

7. 本文の内容としてあてはまるものには○、そうでないものには×をそれぞれつけなさい。

ア 子どもと他者とのかかわりを親が妨<sup>さまた</sup>げてしまうと、子どもの思考力を育てる機会を奪<sup>うば</sup>うことになりかねない。

イ 「六次の隔たり」という説は、SNSが普及<sup>ふ</sup>及<sup>き</sup>している現代においては価値のない考え方になってきている。

ウ 学んできた背景は異なっても「あいさつ」がもっている価値は誰にとっても等しいものである。

エ コミュニケーションの質さは、ことばを選ぶときの話し手の語彙力によって大きく左右される。

オ どのような場面でも通用する言葉に慣れてしまうと、話し手が考える機会が失われてしまう。

三、次の①～⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 監督かんくくの去就きょじゅうが問われる。
- ② このままでは食糧難しょくりょうなんは必至ひっしだ。
- ③ 山の頂すからの景色は素晴すらしい。
- ④ 無駄むだを省しく。
- ⑤ 留め金りゆめがねを外す。

四、次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 法律ほうりつのゴウケンごうけん性を検証する。
- ② ショメイしょうめいを集める。
- ③ 電気代でんきだいをセツヤクせつやくする。
- ④ 葉はがキきく。
- ⑤ 自分じぶんの目をウタガうたがう。

余白

余白